

# 行動計量学会報

## あらためて思うこと:「データの科学」の言葉を巡って

大隅 昇

このたびは名誉会員授与の栄を賜り厚く御礼申し上げます。これまで本学会へのさほどの寄与もなく名誉会員の一人として末席に加わることには忸怩たるものがありますが、いただいたこの貴重な機会に、学会や会員諸氏のご支援を得て実現できた 2, 3 のエピソードを述べてみようと思います。

「データの科学」という言葉 元号が令和に変わるも、世の中はデータ・サイエンス、ビッグデータ、人工知能と議論百出の感がある。しかし私には、当世のデータ・サイエンスと故・林知己夫先生のいう「データの科学」には微妙な温度差があるように思えてならない。「データの科学」の理念は林先生の同名著書(2001)に譲り、ここではこの言葉の発祥について触れてみたい。かつて 1960 年代~70 年代に Tukey の EDA が登場した。林先生は EDA ではまだ距離がある、むしろ対応分析 (Analyse des Correspondances) の提唱者 Benzécri 氏のいう “Analyse des Données” (フランス流「データの解析」) がご自分の気持ちにより近いと考えておられたと思う。

Benzécri 氏や彼の周辺の研究者ら (Lebart, Roux, Jambu, Cazes, Diday, 故・Brigitte Escoufier 他) との研究交流の中で、日仏科学協力事業セミナー (JSPS・CNRS 助成他) を開く機会を得た。セミナーは 2 回開催され (東京 1987 年; モンペリエ 1992 年), 2 回目の研究集会・論文集 *La Science des Données et ses Applications (Data Science and its Applications)* にはじめて “data science” が登場する。この言葉は、林先生、Y. Escoufier 氏 (当時モンペリエ大学長), 私で何度も議論を重ね生まれた。林先生の主張は帰納的・探索的アプローチだけで

は意を尽くせぬこと、譬えるならシャーロックホームズのような理に適った鋭い洞察力と「データは自ら集めるもの、データによる現象理解」の意を汲んだ適切な言葉があるはずということであった。多くの言葉が挙がり、最後に “data science” と「データの科学」に落ち着いた。

その後、日本分類学会を含む国際分類学会連合主催の IFCS-96 神戸大会 (1996 年) を、本学会をはじめ多数の学会、研究機関の協賛・共催、企業のご支援を得て開催することとなる。前年の阪神・淡路大震災 (1995 年 1 月 17 日) 後の開催は危ぶまれたが、こういう時だからこそ神戸で開催すると決断、神戸国際会議場のご支援もあり無事に開催にこぎ着けた。基調講演の 1 つが林先生の “What is Data Science? Fundamental Concepts and a Heuristic Example” で、ここに「データの科学」の具体的な理念が示されることとなった。これは論文集 *Data Science, Classification, and Related Methods* (1998) に収録されいまでも引用されることが多い ([https://en.wikipedia.org/wiki/Data\\_science](https://en.wikipedia.org/wiki/Data_science))。

最近、Escoufier 氏から、本年 6 月 (18・19 日) にシンポジウム “Montpellier berceau de la Data Science” (モンペリエ: 「データの科学」発祥の地) がモンペリエ大学で開催されるとの嬉しい知らせをいただいた。

ウェブ調査のこと ウェブ調査は、商用はもとより最近では学術研究でも広く利用されている。詳細は略すが科研費助成や複数の調査機関・企業の方々の多大な協力を得て、国内ではじめての組織的な実験調査を行うことができた。成果発表の場として、本学会、統計数理研究所、日本分類学会、

日本マーケティング・リサーチ協会などの主催・共催・協賛でシンポジウムやセミナーを何度も開催した。また、本学会大会特別セッションも何回か企画し多くの方々のご協力を得た。ウェブ調査については昔も今も批判的な意見が多く未だに調査方式としての科学的検証が十分とはいえない。当時もウェブ調査研究を進めることは火中の栗を拾うようなものとの警告もあり、多くの誤解や批判を受けることもあった。ここで背中を押してくれたのは林先生であった。研究成果発表に際し先生からいただいた言葉の一部を引用しよう。《インターネット調査にランダムサンプル的な代表性を求めることは木に縁りて魚を求めるに等しい。…全体に対する代表性を求めることは調査の自滅への道、…しかし、我々はインターネット調査の統計的な研究は避けるべきではない。これがいかなる性格を持つか、いかに用いるのが統計的に妥当かを真剣に研究し、そのあるべき姿を「データの科学」の立場から探るのがとるべき道と思う（傍点筆者）》ウェブ調査研究の本質をついた的を射た言説で、研究に関わる一人としていまも肝に銘じている。

ウェブ調査は技術要素面では格段の改善が進み回答し易い調査票も容易に作れるようになった。しかしインターネット母集団は明らかではなく、参加率も下降の傾向にある。回答率低下はまた、最近の社会調査全体の傾向でもある。故・水野欽司先生の何十年も前の言葉《調査の質や信頼性の確保には、…一般市民の調査への理解を得ることの重要性、統計的思考の重要性や知識の習得が重要であること、自らの手で調査データを集め分析し考えること…（傍点筆者）》を再考し、何度も聴いた「調査は死んだ」を深刻な警鐘として受け止め自らを戒める日々である。

二人の先達の言葉に共通することは「データは自らが集めるもの」「確かなデータにより現象を説明すること」が肝要ということである。これはビッグデータの時代にあっても通底することであろう。ウェブ調査にかぎらず社会調査全般で従来の調査の定法が有効に機能しなくなったようにもみえる。調査方法論研究のパラダイム・シフトが求められているのかもしれない。安易な方向に妥協することなく「データの科学」の理念を里程標と

して進むべき道を探る時にあるように思う。

紙幅の都合で個々のお名前を挙げないが、この場をお借りしご支援いただいた皆様に心より御礼申し上げます。またこの小文を泉下に眠る林・水野両先生へのオマージュとします。終わりに、日本行動計量学会のさらなる進展を祈念し御礼の言葉といたします。

**大隅 昇** (おおすみ・のぼる)

**統計数理研究所名誉教授**

日本大学理工学研究科卒 (1972年), 統計数理研究所・第4研究部研究員 (1972年), 同・調査実験解析研究系助教授 (1985年), 同・教授 (1988年), 仏国 ENST 客員教授 (1989年), 統計数理研究所・名誉教授 (2004年)。

## 学会役員 (2018–2020)

### ・大会担当委員会 (就任)

委員長：大森 拓哉

副委員長：松本 渉 横山 暁

委員：

上野 雄史 猪狩 良介 岡田 謙介

尾碕 幸謙 清水 昌平 菅野 剛

鈴木 讓 角田 弘子 中村 永友

橋本 貴充 藤井 誠二 星野 崇宏

斐岩 晶 山田 剛史 吉田 清隆

## 役員異動のお知らせ

### ・欧文誌編集委員会委員

下川 敏雄 (解任)

### ・理事

下川 敏雄 (退任)

## 運営委員会より

運営委員会委員長 鈴木 讓 (大阪大学)

## 平成31年度研究部会の採択結果

<研究グループ> (新規)

心理モデリング部会 (～2022年度)

代表：小杉 考司(専修大学人間科学部)

連絡先：小杉 考司

E-mail: kosugi@psy.senshu-u.ac.jp

<研究グループ> (継続)

非対称データ分析のための理論と応用 (2018~2019 年度)

代表: 今泉 忠 (多摩大学経営情報学部)

連絡先: 今泉 忠

E-mail: imaizumi@tama.ac.jp

<地域部会> (継続)

行動計量学会岡山地域部会 (2018~2021 年度)

代表: 坂本 亘 (岡山大学)

連絡先: 坂本 亘

E-mail: w-sakamoto@okayama-u.ac.jp

### 研究部会名「非対称データ分析のための理論と応用」2018 年度報告

報告者 代表者 多摩大学経営情報学部 今泉 忠

研究グループ申請 (2018-2019年度)

#### ● 研究計画

社会行動科学から自然科学に至る広範な分野で観測される非対称関係データに関する計量心理学, 数理心理学, 数理統計学, 地理学, 政治学, 社会学, マーケティング, 生物学, 物理学, 化学分野などでの各種のアプローチについて, 各分野の研究者の間の学会発表等の相互交流を継続的に行い, 非対称データを発生せしめる現象に関する学際的な理論的研究や応用研究について, 以前の研究部会による成果も踏まえて行う。

#### ● 活動予定

これまで数年にわたり継続的に行っている日本行動計量学会での非対称特別セッションに加えて, 期間中に 1, 2 回, 東京および地方でメンバーの相互交流や他分野の講師を囲む研究会を開催し, 成果を公開する。

#### ● 2018年度活動

##### (1) Webでの広報

Webでの広報を行った。

<http://stat.tama.ac.jp/myresearch/asym-metricscaling-bsj/>

##### (2) 行動計量学会大会でのセッション構成と発表セッション構成趣旨

「行動現象を説明する場合に 2 国間の貿易関係や 2 友人間関係など,  $n$  者の 2 者間の関連度をもとに  $n$  者間の関係を分析する場合がある. 2 者関係が非対称である場合には, その非対称の関係などを踏まえて分析することで, データに隠れている関係をより捉えることができる. そのためのモデルと応用例について討議し,  $n$  者間の関係に関する将来の研究に貢献する.」

2018年度 日本行動計量学会第46回大会 (慶應義塾大学三田キャンパス) 特別セッション 非対称データの分析-理論と応用-

- An elementary theory of a dynamic weighted digraph  
○千野 直仁(愛知学院大学心身科学部)
- 単相 2 元非対称多次元尺度構成法の比較と検討 -距離モデルの場合-  
○岡太 彬訓(立教大学), 今泉 忠(多摩大学)
- 対角要素に依存しない slide-vector model の提案  
○今泉 忠(多摩大学経営情報学部), 岡太 彬訓(立教大学)
- 2 相 3 元 Dominance 点モデルを用いた Functional MDS について  
○土田 潤(東京理科大学工学部情報工学科), 宿久 洋(同志社大学文化情報学部)
- 次年度 (2019 年度) 活動計画  
国内外から研究者を招聘し研究会を開催する。

### 岡山地域部会 2018 年度活動報告

坂本 亘 (岡山大学)

岡山地域部会は, 岡山県および近隣地域の行動計量学に関する研究と研究者間の人的交流を積極的に行うことを目的としており, 日本行動計量学会から活動経費の助成を受けております. 第 4 期の黒田正博先生(岡山理科大学)から引き継いで, 今年度から第 5 期の活動を開始いたしました。

本年度は計 4 回の研究会を開催いたしました. 一部は岡山統計研究会, 岡山理科大学マネジメント学会との共催により開催いたしました. 各回の概要は次のとおりです。

○第 68 回研究会 (参加者 18 名)

テーマ: 研究 IR の現状と展望

日時: 2018 年 10 月 27 日(土)

講演者・講演題名:

水上祐治 (日本大学): 研究 IR の概要, 共著分析  
による研究者の個人評価と組織評価の連携

藤野友和 (福岡女子大学): トピックモデリングに  
よる著者識別について

大学・研究機関による意思決定を支援する調査研究  
として注目を集めている Institutional Research (IR)について,  
第一線で研究をされているお二人にご講演いただきました。

○第 69 回研究会 (参加者 21 名)

テーマ: 事前・事後テストデザインにおける処遇  
効果の評価—事前テストの測定誤差の影響

日時: 2018 年 12 月 23 日(日・祝)

講演者・講演題名:

Yasuo Miyazaki (Virginia Tech, USA)

Bias in Treatment Effect Estimates when  
Pretest has a measurement error in  
Pretest-Posttest Design ANCOVA Analysis

バージニア工科大学の宮崎康夫先生をお迎えし  
て, 教育心理分野の調査研究で見られる処遇効果  
の評価の問題についてご講演いただきました。

○第 70 回研究会 (参加者 18 名)

テーマ: Simple and Multiple Correspondence  
Analysis

日時: 2019 年 3 月 2 日(土)

講演者・講演題名:

Rosaria Lombardo (University of Campania  
"Luigi Vanvitelli", Italy)

An Introduction to Simple and Multiple  
Correspondence Analysis

質的データの分析手法であるコレスポンデンス  
分析の著書が出版されている Lombardo 先生をイ  
タリアよりお迎えして, カテゴリ間の連関のグラ  
フ表現などについてご講演いただきました。

○第 71 回研究会 (参加者 21 名)

テーマ: データの分析手法とその応用

日時: 2019 年 3 月 16 日(土)

学生セッション: 発表者 10 名

(岡山大 5 名, 岡山理科大 2 名, 広島大 3 名)

全体レクチャー講演者・講演題名:

林 邦好 (聖路加国際大学): AI 技術と統計手法  
を用いた医療画像データ解析の実際

毎年 3 月に, 若手研究者の育成を目的として,  
学生セッションを設けて開催しています。教員参  
加者による審査を行い, 優秀賞 1 名とプレゼン賞  
1 名を表彰しました。全体レクチャーでは深層学  
習と統計手法の興味深い活用事例が紹介されまし  
た。

岡山地域部会の活動内容, 今度の研究会の開催予  
定などは, 以下の Web ページに掲載しています。

[http://mo161.soci.ous.ac.jp/bsj\\_okayama/](http://mo161.soci.ous.ac.jp/bsj_okayama/)  
<https://sites.google.com/view/bsj-okayama/>

代表者連絡先:

〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1

岡山大学環境理工学部環境数理学科 坂本 亘

E-mail: w-sakamoto@okayama-u.ac.jp

## 広報委員会より

広報委員会委員長 尾崎 幸謙 (筑波大学)

### 学会 Web ページのデザイン変更・整備・更新

学会 Web ページのデザイン変更を進めていま  
す。第 47 回大会の頃には変更される予定です。

また, 通常業務として Web ページの整備・更  
新を行いました。統計関連学会連合大会, 行動計  
量学会主催ワークショップ, 関連学会についての  
案内などのお知らせを掲載いたしました。今後も  
会員の皆様に有益な情報が提供できるよう引き続  
き Web ページの整備・更新を行っていきたく  
思います。

### メールニュースの配信

2018 年度のメールニュースの配信状況は下図  
の通りです。配信数はほぼ前年並みでした。

広報委員会では, 会員に関係があると思われる  
シンポジウム, セミナー, 公募情報(賛助会員企業  
の求人情報も含む)などの情報を含め, 会員の皆  
から情報を募集しております。広報依頼の受付の  
ページ

<http://www.bsj.gr.jp/prrequest/index.html>

から情報をお寄せ下さい。

## 日本行動計量学会第 47 回大会のご案内

### 第 47 回大会実行委員会

実行委員長 狩野 裕 (大阪大学)

副実行委員長 鈴木 讓 (大阪大学)

第 47 回大会は 2019 年 9 月 3 日(火)～9 月 6 日(金)の日程で大阪大学豊中キャンパスにて開催致します。会員の皆様にはぜひ積極的なご参加を賜りますようお願い申し上げます。(敬称略)

### 記

#### ○ 大会開催要領

日 程： 2019 年 9 月 3 日(火)～9 月 6 日(金)

場 所： 大阪大学豊中キャンパス (大阪府豊中市待兼山町 1-3)

アクセス： 大阪大学豊中キャンパス：

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/accessmap.html#map01>

#### ○ 大会日程

5/31 (金) 一般研究発表申込締め切り

6/17 (月) 抄録原稿提出締め切り

6/28 (金) 速報版プログラムのウェブ公開予定

7/26 (金) プログラム冊子送付予定

8/2 (金) 事前参加申込締め切り

8/6 (火) 事前参加費振込み締め切り

9/3 (火) ～9/6 (金) 第 47 回大会 (9/3 はチュートリアルセミナーのみ)

(事情により変更することがあります)

#### ○ チュートリアルセミナー

日 時： 2019 年 9 月 3 日(火) 午後

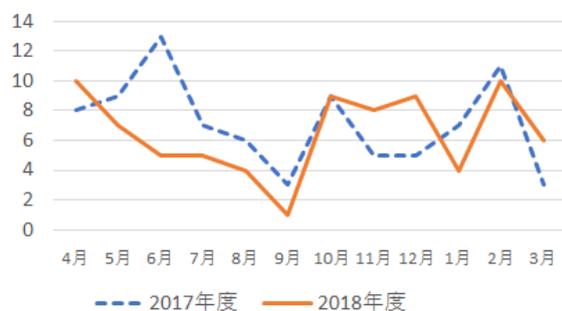
テーマ A：

タイトル： R における tidy なデータ処理と効率的な分析ルーティン --テキストマイニングでの応用例--

講 師： 石田基広 (徳島大学)

概 要： 最近 R 界限では tidyverse という分析フレームワークが浸透しています。tidyverse では、データの前処理と分析方法を統一的な原理にもとづき一般化しようとしていると言えます。本チュートリアルでは、この原理にならって、改めて R におけるデータ処理と分析の手順を確認します。

### 配信数



メールニュースの配信数

### 入会案内の更新

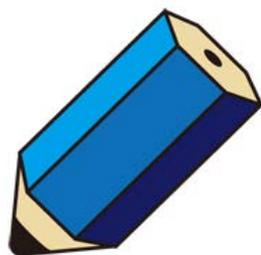
国際文献社の電話番号変更等を理由として、入会案内の更新を行いました。お近くに入会の可能性のある方がいらっしゃいましたら、お誘い頂ければ幸いです。

### 学会 Facebook での情報提供

学会 Facebook では日本行動計量学会に直接関係する情報について学会ホームページの到着情報が更新された際に対応するお知らせ記事を投稿しています。お知らせや記事をご覧になりましたら是非記事を「シェア」していただきますようお願いいたします。「シェア」していただけると情報共有の面で有用と思えます。

### 学会 Twitter での情報提供

大会情報、シンポジウム情報、春の合宿セミナー、新着論文等について情報提供を行っています。5月3日現在、フォロワー数は280です。こちらにつきましても、「フォロー」をぜひお願い致します。



同時に、機械学習周りの手法について、テキスト分析を事例で紹介しします。チュートリアル前半では、Rでデータを操作するコツ（データの読み込みやtidyなデータ処理など）を解説します。またRの代表的なグラフィックス技法であるggplot2について説明します。後半ではテキスト分析を例に、機械学習における分析ルーティンを紹介しします。例えば、トピックモデルや単語分散表現にもとづく分類や予測、センチメント分析などを取り上げます。なおパソコンを持参される受講者向けに、データや分析スクリプトを用意します。ただし、パソコンの持ち込みは必須ではなく、前半後半ともに座学として聴講するだけでも構いません。

#### テーマ B:

タイトル： 欠測データの統計解析

講師： 高井啓二（関西大学）

概要： 本来観測されるはずが、その一部が観測されなかったデータを欠測データと言う。本チュートリアルでは、欠測データ解析の基礎的な概念や手法を紹介する。正規分布などの簡単だが重要な(数値)例を用いて、欠測データ解析の手法が何を狙っているのか、何をしているのか、という点についての理解を深めたい。

#### ○ 大会基調講演

本大会では大阪大学の二人の教授が基調講演を行います。両講演とも行動計量学に相応しい内容です。理工系からは石黒浩教授が人、人の心、ロボットを総合的に研究する文理融合研究を紹介しします。石黒先生は6/30まで毎週日曜朝に放送のNHKラジオ「こころをよむ」に出演中です。社会科学系からは行動経済学の第一人者である大竹文雄教授が登壇します。市民を動かすには？防災教育だけでは命を救えないとの掛け声の下、日本人の同調傾向に着目した施策とは？平成30年7月豪雨に襲われた広島県とのコラボ研究です。

日時： 2019年9月5日(木) 午前

基調講演1： 石黒 浩（大阪大学）

タイトル： 「人と関わるロボットの研究開発」

基調講演2： 大竹文雄（大阪大学）

タイトル： 「災害避難の行動経済学」



#### ○ 大会シンポジウム

オーガナイザー： 繁樹算男（慶應義塾大学）

日時： 2019年9月5日(木) 午後

タイトル： ベイジアン的発想とデータ分析

概要： 近年MCMC法などの数値的解析法が急速に発展し、「考え方はわかるけど実際には使えない」という感想を持たれてきたベイズ法が、AIや機械学習などに広く使われ、役に立つことが世間的に広く認められてきた。本シンポジウムは、新しいモデルや解析法の提案というよりも、ベイズ的な発想を深めることによって見えてくるベイズ的推論の特質、データから情報を取り出す新しい方法論の展開、経済学におけるビッグデータ分析や、心理学でよく用いられる潜在変数分析の効用と限界、などについてベイズ的アプローチの本質に迫る議論をすることを目的とする。

松原 望（東大名誉教授） 「ベイズ統計学に

Peirceのabductive reasoningは可能か」

松田安昌（東北大） 「連続モデルと離散観測の隔たりを埋めるベイズモデルの方法と課題」

照井伸彦（東北大） 「ビジネス・経済におけるベイズ統計：スモールデータとビッグデータのベイズモデリング」

繁樹算男（慶應大） 「潜在変数（e.g.因子得点、潜在クラス）を組み込んだモデルの説明力」

矢島美寛（東北大） 指定討論

#### ○ 柳井レクチャー

詳細については決定次第メーリングリストでお知らせします。

#### ○ お問い合わせ先

大会ヘルプデスク [bsj-desk@bunken.co.jp](mailto:bsj-desk@bunken.co.jp)

## 2019年度統計関連学会連合大会のお知らせ

運営委員長 中川 重和 (岡山理科大学)  
 実行委員長 竹村 彰通 (滋賀大学)  
 プログラム委員長 桜井 裕仁 (大学入試センター)

今回で18回目になる2019年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします。今大会は 応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日本計量生物学会, 日本行動計量学会, 日本統計学会, 日本分類学会の6学会主催, 滋賀大学共催により開催する運びとなりました。初日の9月8日(日)はチュートリアルセッションと市民講演会を, 一般講演などは2日目以降(9月9日(月)~12日(木))に, 会場はいずれも滋賀大学・彦根キャンパスで開催いたします。懇親会は, 大会4日目(9月11日(水))の晩に, 琵琶湖遊覧(浜大津港)で開催します。是非ご参加ください。

今後, 連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2019/>  
 に関連情報や詳細情報を随時掲載してまいりますので, ご覧ください。

## 1. 大会日程, 開催場所, 各種受付期間

開催日程・場所

9月8日(日): チュートリアルセッションと市民講演会

9月9日(月)~12日(木): 本大会

(いずれも滋賀大学・彦根キャンパス)

主催 応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日本計量生物学会, 日本行動計量学会, 日本統計学会, 日本分類学会

共催 滋賀大学(予定)

懇親会 9月11日(水) 17:00~19:00(予定)

琵琶湖遊覧(浜大津港)

講演申込

5月13日(月) 11:00~ 6月5日(水) 17:00  
 報告集原稿提出

6月12日(水) 11:00~ 6月28日(金) 17:00  
 事前参加申込

7月16日(火) 13:00~ 8月19日(月) 17:00

## 2. 参加申込と大会参加費

当日受付の混雑を緩和するため, ウェブページからの事前申込にご協力ください。受付期間は, 「1. 大会日程, 開催場所, 各種受付期間」を参照してください。事前申込の場合, 参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費(報告集代を含む)	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	7,000円	10,000円
学生(会員・非会員を問わず)	3,000円	8,000円
学生以外の非会員	15,000円	20,000円
チュートリアルセッション参加費(資料代を含む)	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	3,000円	4,000円
学生(会員・非会員を問わず)	2,000円	3,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円
懇親会参加費	事前申込	当日受付
一般(会員・非会員を問わず)	10,000円	12,000円
学生(会員・非会員を問わず)	5,000円	6,000円

## 【シリーズ海外レポート⑭】

## ノースウエスタン大学滞在を振り返る

宮崎 慧 (関西大学)

勤務先である関西大学の在外研修制度により, 2017年9月から1年間, アメリカのノースウエスタン大学ケロッグスクールに滞在しました。ホストの先生は Ulf Bockenholt 先生です。先の号では現地に行くまでの準備と到着後の1月ほどの生

活について記しました。今回は前回の続きを記していきたいと思います。

10 月初旬、Bockenholt 先生の紹介・仲介をしてくださいました慶應義塾大学の星野崇宏先生と院生の方々が Bockenholt 先生との共同研究の提案のために訪問してくださり、その際に私も色々とお話させて頂き、幸先の良いスタートとなりました。基本的には私は特別な用事が無い限り下宿先から大学へ行き作業をし、夕方に大学近くのスーパー・マーケットへ食材を買いに行き下宿先に戻るという単調な生活をしておりましてので、訪問頂けて気分がリフレッシュし、非常にありがたいことでした。

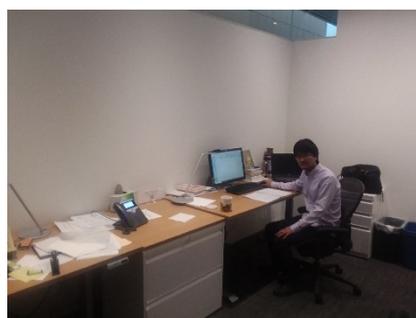
ところが生活に慣れてきたと思った矢先、11 月下旬に所用でダウンタウンまで向かう最中、地下鉄で財布を盗まれました。間抜けなことにクレジットカード 2 枚 (Visa と Mastercard) と、アメリカで作った当座預金の銀行カード、本務校の職員証、滞在先の大学の入構証など大事なカードを全て一緒に入れており、全部持って行かれてしまいました。その時は「もう帰りたい」と本気で思い、財布は複数用意して大事なカードを分散させておくべきだったと反省しました。ただその後驚いたことに、財布が郵送されて戻ってきました。滞在先の大学の入構証が入っていたため、宛名には大学名だけ書かれて送られてきました。犯人は何を考えたのでしょうか。追跡されるのを避けるためならばその辺の道端に捨てれば良いだけです、良い人なのか悪い人なのかよく分かりません。



聖パトリックの祝日にて、緑色に染められたシカゴ川とトランプタワー

生活面については、現金を数百ドル自宅に置いてありましてので数日間はとりあえず大丈夫でした。当然カードはすぐ止めて新しいカードの発行手続きを行いました。防犯上の理由か、カードは下宿先に直接送付されず、カード会社に登録している日本国内の住所に送付されてしまいます。ただし Visa に関しては正規のカードとは別に海外に直接郵送してもらえる「海外緊急カード」というものがあり、さっそく発行してもらいました。

(Mastercard での同様のサービスは、私は見かけませんでした)。しかし緊急用ですので使用期限は 1~2 カ月しかなく、その間に正規のクレジットカードを手に入れないといけません。家族や友人等から直接手渡しで貰うのが最も安全ですが、それは難しいので日本から現地に郵送するしかありません。インターネットで調べると「クレジットカードを海外に郵送するのは保証が効かないため絶対にやらない方が良い」といった内容のページばかり出てきますが、郵送してもらわない限りは生活できませんので、結局 ETS で本にカードをこっそり紛れ込ませる形で入れて家族に郵送を頼み、結果的には無事届きました。カードが盗まれる危険性は国にも因ると思いますが、それほど神経質にならなくてもよいかもしれません。



作業部屋の風景

11 月から 5 月辺りまではシカゴは日本の冬と同じ位かそれ以下の気温になるので、1 年の半分が冬という感じでした。この時期は論文改稿のためのシミュレーション研究や実データ解析の作業を延々と行っていた気がします。寒い地域に行くと生活は大変ですが、作業に集中できるというメリットもあるかもしれません。逆に夏は素晴らしい気候でした。ノースウエスタン大学のあるエバン

ストーンは高級住宅街であり、個人個人の家の庭がとても綺麗で住宅街を歩くだけで植物園を歩いているような感覚でした。ただ夏は冬の間に来なかった道路工事を一気にやり始める季節でもあります。シカゴアンの間には「シカゴには季節が 2 つしかない。それは冬と道路工事の季節だ」というジョークがあるらしいです。



ノースウエスタン大学のレイクフィールから臨む  
ミシガン湖

他に記憶に残っている事柄を細々追記しますと、Bockenholt 先生とは私の進捗が遅く準備不足で頻繁には相談はできなかつたのですが、とても聞き取りやすい英語で毎回対応してくださり、非常に助かりました。ホストの先生と難なくやり取りができるかは研修先を決める際の重要なポイントと改めて思います。

また冬クールに MBA のマーケティングデータ分析に関する講義を見学する機会を頂きました。率直な印象として特別な教授法なども用いず、また定番の内容を扱っているように見えたが、これは却って私にとっては少し自信になりました。少人数授業で多変量解析のマーケティングへの応用を講義しつつ、グループを作り課題を決め、最終回で講義にて扱った分析を用いて問題解決し発表するという、Problem Based Learning の要素を取り入れた講義でしたが、1 つのグループが講義で触れた分析を一切用いずに最終発表しておりました。折角教えたのに、講義担当の教員は内心どう思ったのでしょうか・・・私には気がかりでした。

私の下宿先では、家賃をクレジットカードで払う際にかかる convenience fee が、Mastercard で

は約 60 ドル、Visa では約 90 ドルと大分違いました。このような点からもやはり複数の会社のクレジットカードを事前に用意しておいた方が良いかと思います。

教員の個人研究室の壁が一部ガラス張りになっており中が見られる形になっていた（ハラスメント対策でもあるのでしょうか）ので、失礼ながら中の様子を少し覗いてしまったのですが、どの教員も研究室に置いてある本の数が非常に少なかったです。これは私にとっては印象的でした。

最後に、在外研修で注意すべき項目をまとめた私なりの標語「たちつと」を考えたので記したいと思います。まず「た：食べ物」です。食べ物が口に合うかで気分が大分左右されるため重要と思います。私は自炊で対処しました。次に「ち：治安」です。前述の通り私は財布を盗まれ、その時期は本気で日本に帰りたいと思いました。次に「て：天候」です。シカゴは毎年摂氏マイナス 20 度になる週が一度はあり、相当大変でした。また日照時間が少ないので多少暗い気分になってしまいました。一方で前述のように夏は非常に素晴らしく、毎日気持ち良く過ごせました。最後に「と：友達」です。現地で友人を作るためにも、英語が不安な方は英会話教室などに通うことをぜひお勧めします。これらが全て抜けると、最後に「つ：つまらない」が残ってしまうので、気を付けたいところです。

最後に Bockenholt 先生の紹介および仲介をして頂きました慶應義塾大学の星野崇宏先生に心より感謝いたします。とりとめのない散文のような報告で恐縮ですが、今後在外研修に行かれる先生方や院生の皆さんの参考に少しでもなれば幸いです。



宮崎慧 (みやざき・けい)

#### 関西大学商学部准教授

東京大学大学院総合文化研究科  
修了。日本学術振興会特別研究員  
(PD:統計科学)、2012 年関西大  
学商学部助教を経て、2013 年 4  
月より現職。2012 年より 2018 年

まで当学会広報委員。

## 理事会議事録

## 日本行動計量学会 2018 年度第 4 回理事会議事録

日時：2018 年 11 月 15 日（木）18：00～20：45

場所：大学入試センター3 階視聴覚室

議事進行：植野真臣理事長

理事出席者：植野真臣，大森拓哉，岡太彬訓，  
岡田謙介，菊地賢一，繁樹算男，  
鈴木讓，鈴木督久，森裕一（9 名），  
委任状 16 名

監事出席者：村上隆

陪席者：橋本貴充（書記）

## 資料

1. 議事録
  - 1-1. 2018 年度第 3 回理事会議事録案
  - 1-2. 2018 年度総会議事録案
2. 第 46 回大会
  - 2-1. 第 46 回大会実行委員会からの報告
  - 2-2. 大会経費の請求内訳書
3. 学会賞選考
  - 3-1. 学会賞について（申し合わせ）
  - 3-2. 現在の学会賞選考プロセス
4. Behaviormetrika の電子版
5. 和文誌編集委員会からの報告
6. 運営委員会報告資料
7. 広報委員会報告
  - 7-1. 会報小委員会，インターネット小委員会の業務負担軽減
  - 7-2. 入会案内
  - 7-3. 入会案内作成の見積書
8. 資料アーカイブス委員会報告
9. 2019 年度連合大会委員
10. 事務局
  - 10-1. 学会行事の取材申し込みへの対応方針案
  - 10-2. オンライン入会
  - 10-3. 年会費の推移
11. 欧文誌編集委員会からの報告
12. 大会担当委員 2018-2020 年度

## 議事

議事に先立ち，開始時点で議決権 22 名（理事出席 6 名，委任状 16 名）であり，理事会が成立していることが確認された。

## 1. 議事録確認

資料 1-1 にもとづき，2018 年度第 3 回理事会の議事録が承認された。

資料 1-2 にもとづき，2018 年度総会の議事録が承認された。

## 2. 第 46 回大会

菊地事務局長より，資料 2 にもとづき，第 46 回大会のセッション数，発表件数，参加者数，チュートリアルセミナーの参加者数が報告された。学会からの準備金 30 万円を，学会に返金予定であることが報告された。

## 3. 学会賞選考委員長

学会賞選考委員長を林文会員に依頼することとなり，菊地事務局長から連絡することとなった。また，学会賞選考委員は公開しないものの，理事会には報告する方針とし，次回理事会までに，事務局が申し合わせの修正案を作成することとなった。

## 4. 科研費関係

鈴木運営委員長および繁樹理事より，12 月 1 日に科研費によるシンポジウムを行う予定であることが報告された。また，植野欧文誌編集委員長より，このシンポジウムの Web サイトを作成したこと，次回以降，名称を International Workshop on Data Science とし，実行委員会を組織した上でゲストスピーカーを理事会に諮る方針であることが報告された。

菊地事務局長より，資料 4 にもとづき，欧文誌のバックナンバーの，Springer 社への移行について，これまでの経緯が説明された。

## 5. 各委員会報告

## ・学会誌編集委員会

星野和文誌編集委員長の代理として，岡田副委員長より，資料 5 にもとづき，第 45 巻第 2 号の内容，現在の投稿状況と審査状況，展望論文の依頼について報告された。

植野欧文誌編集委員長より，資料 11 にもとづき，第 45 巻第 2 号および第 46 巻第 1 号の内容，2016 年からの論文数の推移，和文誌との協働案が報告された。欧文誌編集において，編集倫理に抵触する恐れのある行為があったことが報告され，対応が話し合われた。植野欧文誌編集委員長より下川

敏雄編集委員 (Behaviormetrika Coordinating Editor) への処置について提案があり、同編集委員の任を解くことが承認された。これに伴い、理事会の総意として、同会員が務めている理事を辞職するように、植野理事長より同会員に働きかけることが承認された。再発を防止するために、早急に、対策を考えることとした。

・運営委員会

鈴木委員長より、資料6にもとづき、秋の行動計量セミナーが実施されたことと、春の合宿セミナーの計画が報告された。また、平成31年度の研究部会を募集することが報告された。

・広報委員会

尾崎委員長の代理として、岡田副委員長より、会報内容のスリム化案が提案された。また、会報の発行日および原稿締め切りを柔軟にすることについても提案され、どちらも承認された。WebのCMS化の提案があり、作業を進めることとした。新しい入会案内リーフレットの案が承認され、印刷することとなった。

・大会担当委員会

大森委員長より、資料12にもとづき、2018年度から2020年度にかけての大会担当委員案が提案され、一部修正の上、承認された。

・資料アーカイブス委員会

松本委員長の代理として鈴木委員より、資料8にもとづき、『数理科学』（特集「行動計量の動向」, 1974年2月）の電子化とWeb上での一般公開をめざすことが報告され、承認された。

・イノベーション委員会

岡太委員長より、9月に委員会を開催したこと、近日中に議事録を公開することが報告された。

・統計関連学会連合

岡太担当理事より、資料9にもとづき、2019年度連合大会委員が提案され、承認された。なお、今後、連合大会委員は、毎年1名ずつとすることが報告された。また、連合大会が各学会の主催なのか、共催なのか、統計関連学会連合で検討してもらうよう依頼することも報告された。

・事務局

菊地事務局長より、資料10-1にもとづき、学会行事の取材申し込みへの対応方針が提案され、一部修正の上、承認された。資料10-2にもとづき、入会手続きのオンライン化が提案され、議論された。

資料10-3にもとづき、年会費の値上げについて検討され、次回までに試算を示すこととされた。回覧資料にもとづき、すべての入会・退会希望が承認された。

## 6. その他

次回理事会は後日日程を調整の上、平成31年2月に大学入試センターにて開催予定。

以上

## 学会賞について（申し合わせ）

日本行動計量学会理事会

### 1) 学会賞の内容について

本学会は、功績賞・優秀賞・奨励賞、出版賞の四つの賞を設定し、功績賞・優秀賞は1986年より、奨励賞は1999年より、出版賞は2011年より授賞を開始する。

#### ① 日本行動計量学会“功績賞”

優れた業績によって、行動計量学の発展に著しく寄与したものを対象とする。原則として、毎年1名とする。受賞者は、総会において表彰され、1名につき10万円の副賞が授与される。

なお、“功績賞”の正式名称を“林知己夫賞（功績賞）”とする。

#### ② 日本行動計量学会“優秀賞”

行動計量学に関する、単数または複数の優れた研究業績を発表した個人または集団を対象とする。毎年1~2件に原則として授賞する。受賞者は、総会において表彰され、1件につき5万円の副賞が授与される。

なお、“優秀賞”の正式名称を“林知己夫賞（優秀賞）”とする。

#### ③ 日本行動計量学会“奨励賞”

若手の研究者で、日本行動計量学会発行の学術雑誌（「行動計量学」および「Behaviormetrika」）、または毎年行われる日本行動計量学会大会において、今後に期待される意欲的な研究業績を発表した個人を対象とする。毎年、原則として1名に授賞する。受賞者は、総会において表彰され、1名につき3万円の副賞が授与される。

なお、“奨励賞”の正式名称を“肥田野直・水野欽司賞（奨励賞）”とする。

#### ④ 日本行動計量学会“出版賞”

過去3年程度に刊行された行動計量学に関する優れた図書の著者・訳者（原則として3人以内）を対象とする。毎年、原則として1件に授賞する。受賞者は、総会において表彰され、1件につき5万円の副賞が授与される。

なお、“出版賞”の正式名称を“杉山明子賞（出版賞）”とする。

### 2) 受賞者の基礎資格について

- ① 個人受賞の場合は、賛助会員を除く会員（準会員、正会員、名誉会員）に限られる。
- ② 集団受賞の場合は、その半数以上が会員でなければならない。
- ③ 授賞に当たっては、本人の承諾を必要とする。
- ④ “功績賞”・“奨励賞”は一人一回に限る。

### 3) 対象とする研究業績（出版賞を除く）について

- ① 賞は、研究上の業績に与えられるものであるが、「人」を表彰するものであり、「特定の仕事」自体に賞を付与するものではない。従って、業績は単数の内容とは限らない。複数の内容（数編の論文）でよく、全体として優れた内容であればよい。
- ② 業績は、研究論文のほか、優れた分析プログラム、データベース、測定・分析機器の開発・改善、大会報告、優れた調査研究など、幅広い学術的成果を含めるものとする。ただし、奨励賞の場合の業績には、日本行動計量学会大会の研究発表を含めるものとする。
- ③ 功績賞・優秀賞を受ける者の業績は、その主たるものが「行動計量学」「Behaviormetrika」、所属機関の刊行物（紀要、社内誌など）、一般誌（商業的な学術誌）、著書などに掲載されたものでなければならない。（他学会誌の論文が主たるものでは、いけない。）

### 4) 選考の仕組みについて

#### ① 選考の手順

- (1) 選考委員長は、大会終了後最初の理事会で理

事会が指名する。選考委員は、選考委員長が指名し理事会に報告する。選考委員長を除き、選考委員は非公開とする。

- (2) 理事会は、各種候補者選考のため、大会終了後ただちに、以下の役職を含むメンバーからなる3つのワーキンググループ(WG)を組織し、とりまとめ役を決める。

- ・功績賞 WG：事務局1名、学会誌編集委員長、理事会が指名した若干名のメンバー
  - ・優秀賞・奨励賞 WG：事務局1名、学会誌編集委員長、和文誌編集委員長、欧文誌編集委員長、理事会が指名した若干名のメンバー
  - ・出版賞 WG：事務局1名、広報委員長、運営委員長、理事会が指名した若干名のメンバー
- 各ワーキンググループは、複数候補者の情報の収集を開始する。

- (3) 各ワーキンググループは、複数の候補者の情報を、担当理事を介して選考委員長に報告する。

- (4) 選考委員会は、ワーキンググループからの情報に基づき、審査にあたる。

- (5) 審査に当たり、委員会は特定の候補者の業績について、秘密を条件として、協力者の意見を求めることができる。協力者は会員に限るものとする。

- (6) 委員会は、審査した最終的な候補者を、選考理由を付して、理事会に提案する。

- (7) 理事会が委員会提案の候補者を承認したとき、受賞者が決定する。承認は出席理事の過半数の同意による。ただし、受賞者に受諾の意志がない場合は、この決定を無効とする。

- ② 委員会の審議において、種々の事情から最終的な候補を選べなかった場合、当該年度の授賞を見送ることができる。

- ③ 委員会の事務は、事務局が補佐する。

- ④ 審査・選考の経緯などについては、審査に関与した者を除き、非公開とする。

- ⑤ 個別の事例について問題が生じたときは、そのつど、選考委員会が決定し、その内容を記録に留め、慣例として集積する。

- ⑥ 委員会およびワーキンググループは、総会での授賞終了をもって解散する。また、授賞を見送る場合も、総会報告終了後に解散する。

5) 選考委員が受賞候補となる可能性が生じた場合について

① 選考の過程で受賞候補者が少数に絞られ、その中に選考委員が含まれた場合、その選考委員は選考委員を辞任しなければならない。

「受賞候補者が少数に絞られた」という段階の認定は、選考委員長が行う。

② 選考委員長が、上記の段階で候補者になった場合は、理事会に申し出て選考委員を辞任するものとする。

6) 学会賞特別会計について

① 授賞に要する基金の積立てのため、学会賞特別会計を開設する。

② 特別会計の繰入れ金は、原則として寄付金をもって当てる。また、必要に応じて行う通常会計からの繰入れを妨げないものとする。

平成31年2月25日現在

## 日本行動計量学会 事務局所在地に関する細則

1. 本会の事務局の所在地は、原則として事務局長の勤務先所在地とし、2009年4月から

〒274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1  
東邦大学理学部情報科学科菊地研究室内

Tel: 047-472-1182

Fax: 047-472-1241

とする。

2. 本学会費納入のためのゆうちょ銀行振替口座（口座番号：00160-3-426580）の代表者を事務局長とし、2012年12月から、

菊地賢一

とする。また、この振替口座の加入者住所は、会員業務委託先の（株）国際文献社の所在地とし、2018年12月から、

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカ  
デミーセンター

日本行動計量学会 会員業務担当

Tel: 03-6824-9371

Fax: 03-5227-8631

とする。

2011年2月28日より施行

2012年12月10日改正

2019年2月25日改正

## 日本行動計量学会 2018年度第2回理事会議事録 修正箇所

理事出席者

誤：岩崎学，植野真臣，大森拓哉（書記），…（中略）…，菊地賢一，椎名久美子（書記），…

正：岩崎学，植野真臣，大森拓哉（書記），…（中略）…，菊地賢一（書記），椎名久美子（書記），…

議事

4. 各委員会委員の委嘱

誤：大会担当委員会については、今年度の大会までは昨期の委員が継続して担当し、9月までに新委員の人選を行うことになった。

正：大会担当委員会については、次回理事会までに新委員の人選を行うこととなった。

9. 各委員会報告

・学会誌編集委員会

誤：岡太編集委員長より、EUで施行されたGDPRへの対応が、今後、必要となるかもしれないとの報告があった。

正：岡太編集委員長より、EUで施行されたGDPR（一般データ保護規則）への対応が、今後、必要となるかもしれないとの報告があった。



### 学会協賛イベントについて

事務局長 菊地 賢一 (東邦大学)

承認日	協賛イベント	開催年月日
2019年 4月17日	第21回日本感性工学 会大会	2019年 9月12日 -14日
2019年 3月15日	第35回ファジィシス テムシンポジウム (FSS2019)	2019年 8月29日 -31日

(2019年1月16日~2019年4月17日承認のもの)

### 会員の著書等

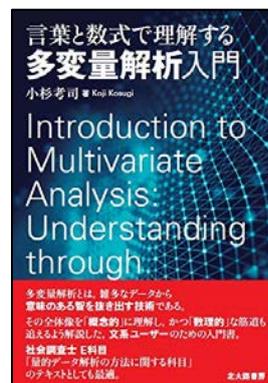
横山詔一・杉戸清樹・佐藤和之・米田正人・前田忠彦・阿部貴人 (編) 『社会言語科学の源流を追う (シリーズ社会言語科学2)』, ひつじ書房, 2018年9月



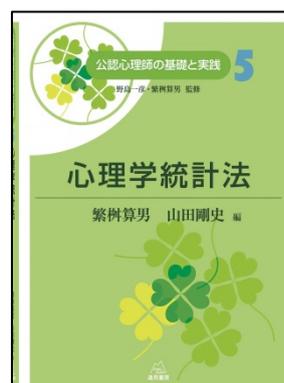
株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所 (著) 『データで読み解くスマホ・ケータイ利用トレンド2018-2019』, 中央経済社, 2018年9月



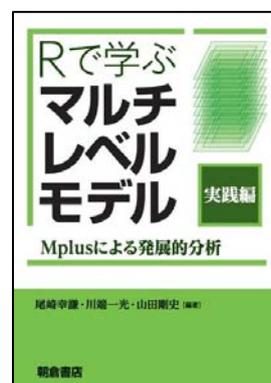
小杉考司 (著) 『言葉と数式で理解する多変量解析入門』, 北大路書房, 2019年1月



繁樹算男・山田剛史 (編) 野島一彦・繁樹算男 (監) 『心理学統計法 (公認心理師の基礎と実践 第5巻)』, 遠見書房, 2019年3月



尾崎幸謙・川端一光・山田剛史 (編著) 『Rで学ぶマルチレベルモデル実践編—Mplusによる発展的分析』, 朝倉書店, 2019年4月



## 学会誌論文投稿先

学会大会で発表された研究などをできるだけ論文として投稿して下さい。お待ちしております。

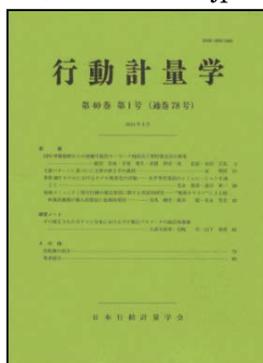
## 和文誌：「行動計量学」

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学経済学部

星野 崇宏 和文誌編集委員長宛

E-mail: hoshino@econ.keio.ac.jp



(DOI) <http://dx.doi.org/10.2333/jbhmk.XX.YY>

(JOI) DN/JST.JSTAGE/jbhmk/XX.YY

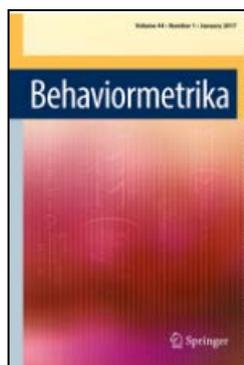
注)XX: 論文掲載の巻 No. , YY: 論文の開始ページ No.

欧文誌：「*Behaviormetrika*」

Editorial Manager からご投稿下さい。

<https://www.editorialmanager.com/bhmk/default.aspx>

植野 真臣 欧文誌編集委員長宛



(DOI) <http://dx.doi.org/10.2333/bhmk.XX.YY>

注)XX: 論文掲載の巻 No. , YY: 論文の開始ページ No.

(ISSN)0385-7417 (print version)

(ISSN)1349-6964 (electronic version)

## 既刊論文の電子化に伴う著作権委譲手続きについて

日本行動計量学会では、独立行政法人科学技術振興機構（以下、JST）の支援を受け、本学会欧文誌「*Behaviormetrika*」および和文誌「行動計量学」に掲載された論文記事を創刊号（1974年）に遡って電子化し、JSTで運用している電子アーカイブサイト J-STAGE にて全文公開（無償での公開）しております。電子アーカイブ化・公開には、創刊号からの掲載論文の著作権行使（全文電子公開）同意を論文著者から得る必要があります。1999年の総会以降刊行された論文については、著作権は日本行動計量学会に帰属するよう規定が明確に定められましたが、それ以前に掲載された記事等の著作権は、明確に定められておりませんでした。電子化し公開するに当たっては、各論文の著者全員に、本学会への著作権委譲についての文面をお送りし、多くの著者のご了解をいただきました。現在までにお返事をいただいていない著者の論文は、本来は著者からの権利委譲を待つべきですが、「行動計量学」「*Behaviormetrika*」それぞれ全体の研究上の利便性、研究者の利用の便宜等を考えて、すでに電子化公開しております。著作権委譲についてお返事をいただいていない著者で、電子化し公開することが不都合とお考えの方は、和文誌、欧文誌それぞれの編集委員会までご連絡下さるようお願いいたします。公開を中止するなど、学会として誠意をもって対応いたします。

なお、著作権委譲について行いました手続き等は会報 123 号（2009 年）に掲載され、学会の WEB ページの「学会誌」の「著作権規定」の欄 <http://www.bsj.gr.jp/journal/copyright.html> に掲載されていますのでご参照下さい。

また、「*Behaviormetrika*」は、2017 年 1 月発行の Volume 44, Number 1 よりシュプリンガー・ジャパン社からの出版になりました。これに伴って Volume 44, Number 1 以降はシュプリンガー・ジャパン社の Web site において公開されます（非会員には有償）。Volume 43, Number 2 以前に掲載された論文は、従来通り JST で運用している電子アーカイブサイト J-STAGE にて全文公開されます。

## ご連絡

### 日本行動計量学会会員数 (2019年5月7日現在)

正会員	:	742名	(海外5含む)
準会員	:	75名	
名誉会員	:	21名	
賛助会員	:	22社	
シニア会員	:	37名	
計	:	897名	
学会誌等寄贈先	:	5件	

### 入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

日本行動計量学会 会員業務担当 担当：岸

E-mail: [bsj-post@bunken.co.jp](mailto:bsj-post@bunken.co.jp)

Tel. 03-6824-9371 Fax. 03-5227-8631

### 会員向けメーリングリストの登録・変更・削除

本会では、会員向けメーリングリストに登録されたアドレスにメールニュースを配信しています。こちらへメールアドレスを新規登録、変更、削除（メールニュースの配信停止）される場合は、ご自身で、「会員向けメーリングリスト：登録・サービスの詳細」のページ

<http://www.bsj.gr.jp/member/ml.html>

に接続して、その指示にしたがって、マイページにログインして作業を行って下さい。よろしくお願ひします。

(注意) 2013年12月中旬より配信システムが変更されています。

### マイページへのログイン

マイページへは、<会員番号>と<個人用のパスワード>を使用してログインします。

### 会員専用ページへのアクセス

学会 Web ページの「会員のみなさまへ」の会報の「最新版」、「バックナンバー」および「過去のメーリングリストアーカイブ」(過去のメールニュース)のページにアクセスする際には、以下のユーザー名とパスワードの入力が必要となります。

ユーザー名：bsj

パスワード：1973

### 求人情報の掲載について

大学およびそれに準じた組織(国立研究機関等)の教員公募などの求人情報および賛助会員企業・団体の求人情報は、ご依頼に応じて会報やメールニュースの記事としての掲載および学会ホームページからのリンクを行っています。

ただし、会員が所属する企業・団体であっても、当該企業が非会員の場合、かつ大学及びそれに準じた組織(国立研究機関等)でない場合には、求人情報を記事として配信することはできません。配信を希望される場合には、事前に賛助会員になって頂く必要があります。

会報の広告欄への出稿(有料)については、賛助会員であるかどうかにかかわらず、また求人広告かどうかにかかわらず、お引き受けしています。後述する方法でお申し込み下さい。

### 会報の広告欄への出稿について

会報の広告欄へ出稿(有料)される広告は、以下で受け付けています。ただし、広告は、学会の目的に沿うものである必要があります。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

日本行動計量学会 会員業務担当 担当：岸

E-mail: [bsj-post@bunken.co.jp](mailto:bsj-post@bunken.co.jp)

Tel. 03-6824-9371 Fax. 03-5227-8631

**会報原稿募集**

広報委員会では、会員の方が最近発行された著書（会報発行日に出版後 2 年を経過しないもの）や、会員に関係があると思われるシンポジウム、セミナー、公募情報（賛助会員企業の求人情報も含む）などの情報を含め、会員の皆様から原稿を募集しております。広報依頼の受付のページ

<http://www.bsj.gr.jp/prrequest/index.html>

から情報をお寄せ下さい。なお、2011 年度に、日本行動計量学会では「杉山明子賞（出版賞）」が創設されました。出版賞は、過去 3 年程度の間会員によって刊行された優れた図書の著者・訳者が対象となっています。本会報の「会員の著書等」の紹介コーナーは、会員の方々が著書等を出版されたことをアピールできる数少ない場であると思っておりますので、優れた書籍の推薦や情報などをお寄せ下さいますようお願いいたします。なお、会員の方がご自身で出版された著書についてご連絡いただく際には、書誌情報とともに（出版社から入手した）書影を後日お送りいただきますので、ご準備下さい。

編集の都合上、発行月（3, 6, 9, 12）の前々月の末日まで（次号 162 号の場合には 7 月末日）にお寄せいただければ、直近号に掲載することが可能です。それ以降に届いたものにつきましては、内容を判断した上で、次号に回させていただきますのでよろしくようお願い申し上げます。

不明な点などございましたら、上述の広報依頼の受付のページよりお問い合わせ下さい。  
※記事としての求人情報の掲載および広告の掲載は、学会の目的に沿ったものに限ります。

**編集後記**

今号にご寄稿くださった皆様におかれましては、紙面を借りて、御礼申し上げます。大型連休中にもかかわらず、ありがとうございました。

今後も、これまでと同様に皆様からのご意見をお伺いしながら、皆様のお役に立てるような魅力ある充実した会報となるように努めていきたいと考えております。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら広報依頼の受付ページ

<http://www.bsj.gr.jp/prrequest/index.html>

より、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

（ふじた たいすけ、藤田 泰昌）

題字：林知己夫

広報委員会委員長：尾崎幸謙

会報作成担当：藤田泰昌、石橋敬介、稲水伸行、  
岩間徳兼、上野雄史、大崎裕子、  
久保沙織、水師裕、鈴木宏哉、  
登藤直弥、朴堯星、巖岩晶、  
元山斉

相談役：中山厚徳

